

# 日本線虫学会ニュース

## Japan Nematology News

### 目次

◆線虫研究と時間 (近藤栄造) . . . . .	1
◆2001年度日本線虫学会大会 (第9回大会) のお知らせ . . . . .	3
◆事務局から 日本学術会議第6回植物保護・環境シンポジウム 「循環型農林業における植物保護のありかたーその将来展望」の開催について . . . . .	6
◆記事 パラグアイの線虫研究者リディア女史、無事帰国 (佐野善一) . . . . .	7
2001年度米国線虫学会に参加して (岡田浩明) . . . . .	8

## 線虫研究と時間

近藤栄造(佐賀大学)

### 1. はじめに

前号で「足下を確認して次の一步を！」と書いた。であるから、今度は、「次の一步は、これだ」と書くのが順序である。そのつもりもあったが、足下がかなり怪しげになったので、予定が変わった。今回は、線虫についての試験研究に取り組む私たちにとって重要な「時間」を軸に、少し述べたい。

### 2. 自由な時間と不自由な時間

誰にも等しく、1日24時間という時間が与えられている。この時間をどのように使うかが重要であると言われる。その通りである。時間は、使い方によって、活きもすれば、死にもする。今まで、時間をいかに活かそうか、と皆が考え、工夫してきた。

しかし、最近になって急に、自分の判断で「自由に使える時間」が減った。「外から要求されること」に多くを割かれ、「内なる要求に根差すこと」に使える時間が足りない。試験研究に最も必要なのは、頭の中で諸々の考えを自由に遊ばせる時間なのだ。

### 3. 学会活動のための時間確保

学会は、試験研究の成果を世に問う場・公表の場である。そして、この「場」は、自然に与えられるものではない。「場」の確保には、それなりのエネルギーがいる。無償の、ボランティアなサービスが必要である。

学会としての活動は、学会会員によって支えられている。実務的な仕事は、学会事務局や評議員・編集委員が主に担っている。だが、社会状況の大きな変化を反映して多

忙となり、学会のために十分な時間を確保するのは容易でない。

線虫学会のある評議員から指摘されたことであるが、このような状態では、「先が見え見えの研究」や「another example 的な研究」しかできないという危惧がある。決められた時間内に、具体的な成果、目に見える成果を求められるようになってきているので、尚更である。自由な発想に基づき、結果が出るかどうか分からないような、独創的な研究が生まれにくい。

#### 4. では、どうする

物事は、否定的に見だすと、際限なく暗くなる。同じことでも、視点を変えると、輝く側面が見えることがある。そんなポジティブな姿勢で線虫を見てみよう。

大学で線虫学を担当していると、線虫の良さと感じることが多々ある。悪さは、線虫に対する学生の関心の低さである。しかし、これは本当の「悪さ」ではない。見たことも聞いたこともない対象に関心をもっている方が異常である、と考えるのが正常である。このような前提に立って、私たちにとって最も身近な生物であるヒトとの対比を強く意識しながらセンチウについて講義すると、見たことも聞いたこともない生物であるが故に、線虫に興味を示す学生が出てくる。

自白するが、そのような学生は多くはない。細長くてニョロニョロと動く生物を気持ち悪がる学生の方が多い。これは、理性の問題ではなくて感性の問題だから、まあ、仕方がない。でも、面白いことに、この「変な生物」に強い関心を示す「変な人」がいる。線虫に「はまる人」もいる。このような人を大事にしたい。関心・興味に根差す研究の芽が大きく育つことを期待した

い。

線虫に関心を示す学生や試験研究者が多くないという短所は、見方を変えると長所である。線虫についての理解が不十分だから、未知の世界が大きく広がっている。面白い課題や重要な課題が沢山ある。問題は、これらの課題に取り組む姿勢と研究時間の確保だろう。そのため何をすべきかについて、皆でアイデアを出し合いたい。

#### 5. 線虫研究の流れを、ちょっと覗く

だいぶ前のことであるが、日本線虫学会の前身である日本線虫研究会の大会の場で、線虫についての取り組み課題を論議したことがあった。土壌線虫の密度推定法、植物寄生性線虫による作物被害の査定法、要防除水準の決定法、分類・同定に関する研究の充実、などの重要性が指摘された。これらの課題は、食料、特に畑作物の収量と品質の向上が求められていた社会状況・時代状況を反映したものであった。しかし、これらの課題は解決済みとは、まだ言えない。面白くて重要な課題の多くは、そのまま残されている。

1972年に設立された線虫研究会が線虫学会へと発展したのは、8年前の1993年である。学会にした目的の一つは、線虫に関する研究の幅を広げ、線虫研究を総合的に推進することであった。学会になった後も、依然として、植物寄生性線虫に関する研究が大きな割合を占めている。しかし、モデル生物として著名なC. エレガンス、物質循環において大きな役割を果たしている自活性の土壌線虫、害虫防除手段として一部が実用化された昆虫病原性線虫、家畜に寄生して甚大な被害をもたらす線虫、環境指標としても利用できる多種多様な海産線虫などと列記するまでもなく、研究対象

の幅は格段に広がった。研究手法の開発を背景に、DNA解析に基づく分類・同定・機能に関する研究が進んでいる。この分野の研究は、一つの主流として、これからも重要な位置を占め続けるであろう。だが、全体を見渡すと、線虫に関する試験研究の方向性が明確になるのは、もう少し先のことになりそうである。

## 6. おわりに

社会状況が、大きく、急速に変わってきている。線虫に関する試験研究に求められる要求も、複雑かつ高度になった。複数の領域に跨った研究の必要性も増している。これらの課題の解決に向けて、線虫に関する試験研究を行っている学会会員は奮闘している。だが、問題解決は、そう簡単ではない。

このような現状を見ると、線虫学会は、学会として、試験研究の方向性を検討する必要性があると感じる。各自が抱えている問題を内包しないで、時間を共有しながら、学会全体の問題として考えたいと思う。

## 2001年度日本線虫学会大会 (第9回大会)のお知らせ

大会事務局

2001年度日本線虫学会第9回大会を下記の通り開催します。大会についてのお問い合わせは次の大会事務局までお願いします。

〒861-1192

熊本県菊池郡西合志町須屋 2421

九州沖縄農業研究センター線虫制御研究

室 佐野善一

Tel 096-242-7734

Fax 096-249-1002

E-mail sanoz@affrc.go.jp

## 1. 大会日程

2001年10月18日(木)

13:00~14:00 総会

14:10~17:05 一般講演

18:00~20:00 懇親会

2001年10月19日(金)

9:00~12:00 シンポジウム

13:00~17:10 一般講演

2001年10月20日(土)

8:00~16:00 エクスカーション

## 2. 会場 (P.11 参照)

1) 大会: 熊本市国際交流会館(熊本城正面入り口手前)

〒860-0806 熊本市花畑町4-8

Tel 096-359-2020

2) 懇親会: チサンホテル熊本

## 3. 参加費

大会参加費:

一般 2,000 円、学生 1,000 円

懇親会費: 6,000 円

エクスカーション: 3,000 円

(バス代および昼食代を含む)

## 4. 講演プログラム

10月18日(木)

〔総会〕 13:00~14:00

〔一般講演〕 14:10~17:05

(座長 石橋信義)

14:10 101 荒城雅昭・Zakoullah Khan (農環研) 不耕起・堆肥連用圃場の土壌線虫の多様性(第4報) — 農耕地の土壌線虫の

多様性は低くない。

14:25 102 Zakauallah Khan and Masaaki Araki (Natl. Inst. Agro-environ. Sci.) First record of some species of free-living soil nematodes from a non-tillage field of NIAES, Tsukuba, Ibaraki, Japan

14:40 103 伊谷 結・白山義久(京都大理学部瀬戸臨海実験所) 間隙性線虫類 *Meyersia japonica* の2個体群間における gene flow

(座長 小倉信夫)

14:55 104 石川裕士・弘中満太郎・吉賀豊司・近藤栄造(佐賀大農) ベニツチカメムシの生活史と同調した *Caenorhabditis* sp.の動態。

15:10 105 小笠原成人・吉賀豊司・近藤栄造(佐賀大・農) 昆虫病原性線虫が感染した昆虫死体に対する土壌動物の摂食性

15:25 106 吉田睦浩(農環研) 昆虫病原性線虫 *Heterorhabditis indica* 地域個体群の殺虫活性比較

15:25~15:35 休憩

(座長 二井一禎)

15:35 107 岡田浩明(東北農業研究センター) 稲藁堆肥中から発見されたティレンクス科の糸状菌食性線虫の形態と繁殖

15:50 108 大坪亮介・石橋信義・吉賀豊司・近藤栄造(佐賀大農) 菌食性線虫 *Aphelenchus avenae* の耐無水生の個体別誘導について

16:05 109 石橋信義・大坪亮介(佐賀大農)・斎藤栄治(ヨコオ) 菌食性線虫 *Aphelenchus avenae* の保存ならびに製剤化への基礎手段。

(座長 水久保隆之)

16:20 110 岩堀英晶・佐野善一(九州沖縄農研) PCR-RFLP法を用いたサツマイモネコブセンチュウとアレナリアネコブセンチュウ混合個体群の混合比推定法

16:35 111 相場 聡(中央農研)・清水啓(国際協力事業団) アルゼンチンにおけるダイズシストセンチュウ発生状況

16:50 112 植原健人(北海道農研)・清水啓・F. Centurion (CETAPAR/JICA) パラグアイ、アルゼンチン、ブラジルのダイズ圃場および牧草地を中心としたネグサレセンチュウ

〔懇親会〕 18:00~20:00

10月19日(金)

〔シンポジウム〕 9:00~12:00

(座長 近藤栄造(佐賀大農)および荒城雅昭(農環研))

(コメンテーター 百田洋二(北海道農研セ))

「植物寄生性線虫レース研究

の現状と課題」

9:00 挨拶 近藤栄造(日本線虫学会会長、佐賀大農)

9:10 S1 相場 聡(中央農研) ダイズシストセンチュウのレースに関する諸問題

9:50 S2 水久保隆之(中央農研) ネグサレセンチュウにおける寄主親和性の種内変異の生物学的位置付け

10:30~10:40 休憩

10:40 S3-1 奈良部 孝(北海道農研) ネコブセンチュウレースの現状と課題—トマトをめぐる—

11:10 S3-2 佐野善一(九沖農研) ネコブ

センチュウレースの現状と課題ーサツマイモをめぐって

11:30 総合討論

〔一般講演〕 13:00~17:10

(座長 奈良部 孝)

13:00 201 小林義明・木下佳彦(静岡農林大学校)・森脇久晃(志太榛原農林事務所)・古木孝典(静岡農試)・増田良典(遠州夢咲農協) ネコブセンチュウ多発条件下のトマト栽培における、バストリアと化学農薬の組み合わせによる線虫管理事例

13:15 202 水久保隆之・竹原利明・本田要八郎・伊藤賢治・相場 聡・中山尊登(中央農研) 熱水、バスターリア菌、アブスキュラー菌根菌、非病原性フザリウムの組み合わせ処理による半促成施設トマトのサツマイモネコブセンチュウ防除効果

13:30 203 北上 達(三重県科学技術振興センター農業研究部) 太陽熱処理が *Pasteuria penetrans* 胞子の生存に及ぼす影響

13:45 204 立石 靖・佐野善一・岩堀英晶(九州沖縄農研) サツマイモ連作圃場試験区における *Pasteuria penetrans*ー線虫間付着親和性の変化

(座長 荒城雅昭)

14:00 205 奈良部 孝(北海道農研) 北海道の畑輪作におけるマリーゴールドおよびエンバク野生種のネグサレセンチュウ抑制効果

14:15 206 山田英一・橋爪 健・高橋 穰(雪印種苗(株)北海道研究農場) マメ科緑肥作物のダイズシストセンチュウに対する密度低減効果

14:30 207 伊藤賢治(中央農研)・石田

朗(愛知県林業センター) エリンギおよびヒラタケ菌系による線虫の捕捉と防除効果の検討

14:45 208 片瀬雅彦・久保周子・大塚英一・山本二美(千葉農総研) フスマを用いた還元消毒法による線虫防除

15:00-15:10 休憩

(座長 相場 聡)

15:10 209 福澤晃夫・佐藤 敦・西村弘行・山田英一\*(道東海大工、\*雪印種苗) トマト根浸出物のジャガイモシストセンチュウに対する孵化阻害と孵化共同因子

15:25 210 百田洋二・高田明子・串田篤彦・植原健人(北海道農研) ジャガイモシストセンチュウ抵抗性の新検定法

15:40 211 三平東作・片瀬雅彦(千葉農総研センター)・堀江博文(印旛農改センター) サトイモ圃場から検出されたニセフクロセンチュウの特徴とサトイモの被害

(座長 岩堀英晶)

15:55 212 二井一禎・神崎菜摘(京大・農学研究科) 砂丘地帯に発生したマツ材線虫病

16:10 213 真宮靖治・横木一彰(玉川大・農) マツ枯死木材中におけるマツノザイセンチュウ個体数の変動ー玉川大学構内での調査結果ー

16:25 214 小倉信夫・中島忠一(森林総研) *In vitro* 培養マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリへの乗り移り

16:40 215 小坂 肇(森林総研) 菌食性昆虫寄生線虫 *Contortylenchus genitalicola* のマツノマダラカミキリ体内における繁殖特性

16:55 216 神崎菜摘・二井一禎（京大・院・農） "xylophilus group" に属する線虫の系統関係

## 5. エクスカーション

20日（土） 8:00～16:00

詳細資料は当日配付する予定です。

会場出発（8:00）→ 植木町：施設果菜類の特産地として数十年に渡り王座を維持している同町において、土壌分析センターの設立等、連作障害対策の取り組みを見学、当日は土壌病害虫防除のために太陽熱処理した耐久型ビニールハウスのメロンを見学 → 大津町：阿蘇外輪のすそ野に広がる台地で食用サツマイモ産地を確立した同町において、サツマイモ栽培の歴史や経営戦略に裏付けられた線虫対策の取り組みを、掘り取り真っ最中のいも畑で見学 → 大観望：阿蘇の一大パノラマを楽しむ、ただし天気次第 → 阿蘇ファームランド：昼食、地ビールも温泉もある → 熊本空港（15:00）→ 熊本駅解散（16:00）

## 6. 講演者および参加者へのお知らせ

一般講演の時間は、1題当たり15分（予鈴10分、2鈴12分、終鈴15分）です。時間厳守をお願いします。講演には35mmスライドあるいはOHPを使用し、講演1題につき10枚を目安としてください。スライドには、光源側に、講演番号、演者名、挿入方向矢印（または赤線）、映写番号を記入してください。

本大会の講演要旨は、日本線虫学会誌第31巻2号に登載する予定となっております。要旨の修正が必要な場合は10月末日までに日本線虫学会編集事務局宛に、修正した要旨をお送り下さい。

〒305-8687

茨城県稲敷郡茎崎町松の里1  
森林総合研究所 森林微生物研究領域内  
日本線虫学会誌編集事務局

E-mail: [nogura@ffpri.affrc.go.jp](mailto:nogura@ffpri.affrc.go.jp)

Tel. 0298-73-3211(ext.407 or 429)

Fax. 0298-73-1543

大会参加を予定されている方で参加申し込みをお済ませでない方、参加費を未納の方は、当日の会計事務簡素化を図るためにも、なるべく早く参加手続きを済まされますようお願いいたします。エクスカーションは席に十分余裕があります。是非ご参加下さい。

## [事務局から]

日本学術会議 第6回 植物保護・環境シンポジウム「循環型農林業における植物保護のありかたーその将来展望」の開催について

日 時：平成13年11月16日（金）  
午後1時～5時

場 所：日本学術会議講堂  
（地下鉄千代田線乃木坂下車  
徒歩1分）

## プログラム

13:00～13:10 開会挨拶  
日比忠明（植物防疫研連委員長）

13:10～14:00

1. 循環型農業における植物保護の役割  
（基調講演）

講演者：山口 勇  
（理化学研究所）

座 長： 上路雅子  
(農業環境技術研究所)

14:00~14:50

2. エンドファイトを利用した病害虫  
の制御

講演者： 古賀博則  
(石川県農業短期大学)

座 長： 土屋健一  
(農業環境技術研究所)

14:50~15:05 休憩

15:05~15:55

3. ミナミキイロアザミウマの総合的管理  
講演者： 永井一哉

(岡山県農業総合センター)

座 長： 河合 章  
(野菜茶業研究所)

15:55~16:45

4. アレロパシーを利用した植生管理と雑  
草の総合制御

講演者： 藤井義晴  
(農業環境技術研究所)

座 長： 白井健二  
(筑波大応用生物化学系)

16:45~ 閉会挨拶

近内誠登(植物防疫研連幹事)

講演要旨集：無料

参加：一般公開で参加費無料(事前申し込みの必要はありません)

問い合わせ先：

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

東京農工大学農学部応用生物科学科  
寺岡 徹

Tel & Fax ; 042-367-5692

E-Mail : teraoka@cc.tuat.ac.jp

## [記 事]

パラグアイの線虫研究者リディア女史、  
無事帰国

佐野善一(九州沖縄農研)

6月5日からほぼ3ヶ月間、九州沖縄農研の線虫制御研究室に滞在されたリディア女史から、無事帰国したというメールが入りました。konnichiha ogenkidesuka というような文面で、日本語はかなり分かるようになってきていたようです。彼女はパラグアイ唯一の線虫専門家である国立農業研究所(IAN)の研究員です。これまで主にパラグアイの政策的な重要作物であるワタの線虫調査をやってきたようです。現在JICAでは、IANの敷地内に研究所を造って「小農野菜生産技術改善計画」という共同研究を実施していますが、私は昨秋短期専門家としてこのプロジェクトに招かれ、約40日間野菜類の線虫問題を調査する機会を得ました。彼女には、その際実質的にカウンターパートとして協力してもらいました。

そのときパラグアイには、清水さんがJIRCASから派遣されていて、私が帰国してまもなく、北海道の植原さんが清水さんのところへ行かれた際に、清水さんに1週間ほど彼女の研修を引き受けて貰うことができ、それがきっかけでJIRCASの共同研究者と来日したというのが、やや長くなりましたが背景にあります。

パラグアイでは研究施設や待遇面で非常に厳しい研究環境にあることを実感させられました。そういうこともあって、熊本では少し細かい試験を経験するのがいいだろうと考えて、一つは耕種的防除の観点からサツマイモネコブセンチュウのレースに対する種々の対抗植物効果の問題を、もう一つは生物的防除の関連で、各レースに対す

る *Pasteuria penetrans* の付着率を比較してもらいました。サイズでレース間の増殖に違いがあり、パストリアの付着も異なるという、レース間に寄生性以外の形質も違っているという興味深い結果が得られました。

彼女はまさにラテンの国の人で非常に明るく人なつこく、回りの誰とも仲良くなり、熊本の生活を存分にエンジョイして帰ったように思います。熊本の主な観光地はほとんど回り、30年来の私でさえまだ一度も行ったことがない祭りもいくつか楽しんで帰ったようです。実は、初めに無事着いたと書いたのは、帰国に当たって持って帰る荷物が来日時2倍以上に膨れ上がり、おまけに電子オルガンまで土産に買ったため、どうしたら無事持ち帰れるかが最大の問題であったためです。

なお、滞在中、訪問させていただいた北海道の百田室長はじめ研究室の皆様、つくばの水久保室長と研究室の皆様には大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

## 2001年度米国線虫学会に参加して

岡田浩明（東北農研センター）

今年の学会はユタ州ソルトレーク市で開催された。日本からの参加者は私と、農環研のKhan氏のみであった。私は「線虫群集研究のためのペールマン抽出法の有効性（口頭）」と「稲藁堆肥から発見された *Tylenchidae* 科の菌食性線虫（ポスター）」の2課題を発表した。前者では、分類群間で抽出率に差があるため群集研究に不向きとされているペールマン法で（実際には使っている人もいるが）、群集特性を示す指数の推定にどの程度影響が出るかを、篩分け+遠心分離法の場合と比較して明らかにしようとした。個体数、MI25、種数等には影響が少ないが、PPI、食性群構成比等

には影響が大きく、また、農耕地より森林土壌で影響が大きい傾向が見られた。結果が複雑なので、発表当日まで、どう説明しようかとあれこれ悩んだ。その甲斐があり、内容はスムーズに理解してもらえたと思う。また、有意義な意見や質問も頂いた。*Tylenchidae* の方は、熊本でも発表するので説明は省略するが、系統分類学や土壌生態学をやっている人には特に興味を持ってもらった。ただし、*Tylenchida* の分類の大家 M. R. Siddiqi 氏は線虫の同定に疑問を持ち「これは *Ditylenchus* じゃないのか？ *amphid* と *cardia* をチェックして見ろ。」とおっしゃった。この二つの形質は *Tylenchidae* の中では変化が大きいので、大事な形質ではないと思うのだが。

今回は欲張って2課題持っていき、発表準備と発表後の評判を気にして、他の講演をあまり熱心に聞かなかった。それでも「線虫における寄生性の進化」のセッションは全部の講演を聞いた。印象に残ったものでは、ドイツの Sudhaus 氏の「*Rhabditidae* 科における昆虫寄生性の進化」。分解中の有機物等、一時的かつパッチ上に分布する環境が寄生性進化の舞台になったとの仮説。このような環境は私が菌食性の *Tylenchidae* を発見した場所でもあるので興味深かった。「おもしろい仮説ですね。*Tylenchida* 目や *Aphelenchida* 目にも適用できるのでは？」と質問すると、「そう思う。」と答えてくれた。ネブラスカ大の Powers 氏は *Tylenchida* 目内の系統樹を発表した。自分のやってる *Tylenchidae* がどの位置に来るのか興味があったが、彼の仕事はまだ未完成で、属間の系統関係がはっきりしていなかった。「昆虫に媒介される、植物寄生性線虫の進化」（フロリダ大等）もおもしろそうだったが、演者が早口であ

まり聞き取れなかった。

「線虫抵抗性の分子生物学的研究」のセッションも覗いてみた。ワーゲニンゲン大のグループがシストセンチュウとウィルスに抵抗性を持つジャガイモの、UC Davisのグループがネコブセンチュウとアブラムシに抵抗性を持つトマトの遺伝子解析について発表していた。前者では、相同性が高く抵抗性メカニズムが同様と予想される2種類の遺伝子が、実際の抵抗性発現様式を異にする旨が説明され、興味深かった。後者では、Mi-1 遺伝子の構造を Mi-1.1、Mi-1.2、Mi-1.3 に分け、各領域間で塩基を交換する等して、遺伝子の中のどの領域や塩基配列が抵抗性に直接関わっているか明らかにしようとした。自分としては、細かい塩基配列よりも、線虫とアブラムシのどちらに対しても抵抗性を発揮するメカニズムの方に興味があり、演者の Williamson 氏に質問したが「両者への抵抗性は別々の機構が働いていると予想しています。」とのお答えで、ちょっとがっかりした。

ポスターでは、DNA 分析による種の同定や系統樹作成の話が相変わらず多く、土壌線虫の各分類群に「バーコード」をつける研究を発表した人が学生賞を取った。彼に聞くと、あくまで1個体ずつ釣り上げてDNA 分析しているとのこと。日頃集合プレパラートの線虫を1個体ずつ顕微鏡で覗いて同定する面倒くささを実感している身としては、種々の線虫が混ざった材料をすりつぶして、各群の同定と定量を同時に行う技術を誰か開発してくれないかなあと思う次第だ。

それにしても、論文を沢山書く人は、何歳になっても活発である。今回 SON の名誉会員に選ばれた V. R. Ferris 氏、UC Davis の V. M. Williamson 氏や H. Ferris 氏

らは、60才近いのに（いや、それ以上かも）、相変わらず熱心に他人の講演を聴いてはメモを取り、活発に質問をしていた。H. Ferris 氏など、私の口頭発表の時偶然にも司会していたのだが、私の話が終わった時「他人から質問を受け付ける前にまず私が質問する。最後のスライドだが・・・。」などと、人を押しつけてまで自分の興味を優先しようとする。あなた司会じゃなかったの？と思わず笑ってしまった。しかし、自分が彼の年齢になった時、はたしてあのような活発な研究意欲や好奇心をも持ち続けることができるだろうか？

この学会は私にとって今年最も大事なイベントだったが、聞いて欲しかった人すべてに自分の仕事をアピールできた。また、米国の友人達に再会して飲みに行くなどして、日ごろのうっふんを晴らすことができた。とても有意義だった。



「学生ポスターコンテストで2等を取ったインガさんと。Ferris 研の同僚だった。」

[編集後記]

◆ニュース 24 号をお届けします。関東では7月の異常猛暑、関西以西では大雨。今年は大変な夏でした。台風も2回襲来しました。皆様の職場では被害はありませんでしたか？お見舞い申し上げます。さて、線虫学会の九州大会は1995年の佐賀大会（第3回大会）以来6年ぶりになります。今大会では学会事務局と大会事務局が奇しくも重なってしまい、運営に当たられる佐野善一九州沖縄農研センター室長はじめ、研究室の皆様には大変ご苦勞をおかけしました。佐野大会会長は参加者数が意外にも伸びないことを気にしていました。熊本城を望む市内中心部に大きな会場を確保していただきました。魅力的エクスカージョンも計画されています。ご都合をつけて是非ご参加下さいますようこの場を借りてお願い申し上げます

(水久保隆之)

◆農業環境技術研究所線虫・小動物ユニットの吉田です。1号遅れですが、よろしくお願ひします（前号から担当でしたが、気づいたら荒城さんによって完成済みでした。この場を借りて、私も感謝します）。明日、この原稿を印刷屋さんまわすのですが、昨日発生した台風が関東方面に、またやってきそうです。猛暑が一段落したら、急に日本に接近・上陸してくる台風が増えてきました。来月は、風光明媚な熊本で、第9回大会が開催されます。九州沖縄農研センターの方々の尽力によって、盛りだくさんのシンポジウムやエクスカージョンが企画されています。秋空の晴天の下、大会が開催されますように。

(吉田睦浩)

2001年9月27日

日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行

編集責任者 水久保隆之

(ニュース編集小委員会)

農業技術研究機構

中央農業総合研究センター

虫害防除部線虫害研究室

〒305-8666

茨城県つくば市観音台3-1-1

TEL : 0298-38-8839

FAX : 0298-38-8837

E-mail : mizu@narc.affrc.go.jp

日本線虫学会ニュース第24号

ニュース編集小委員会

水久保隆之(中央農研)

吉田 睦浩(農環研)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：農業技術研究機構九州沖縄農業研究センター線虫制御研究室まで

〒861-1192

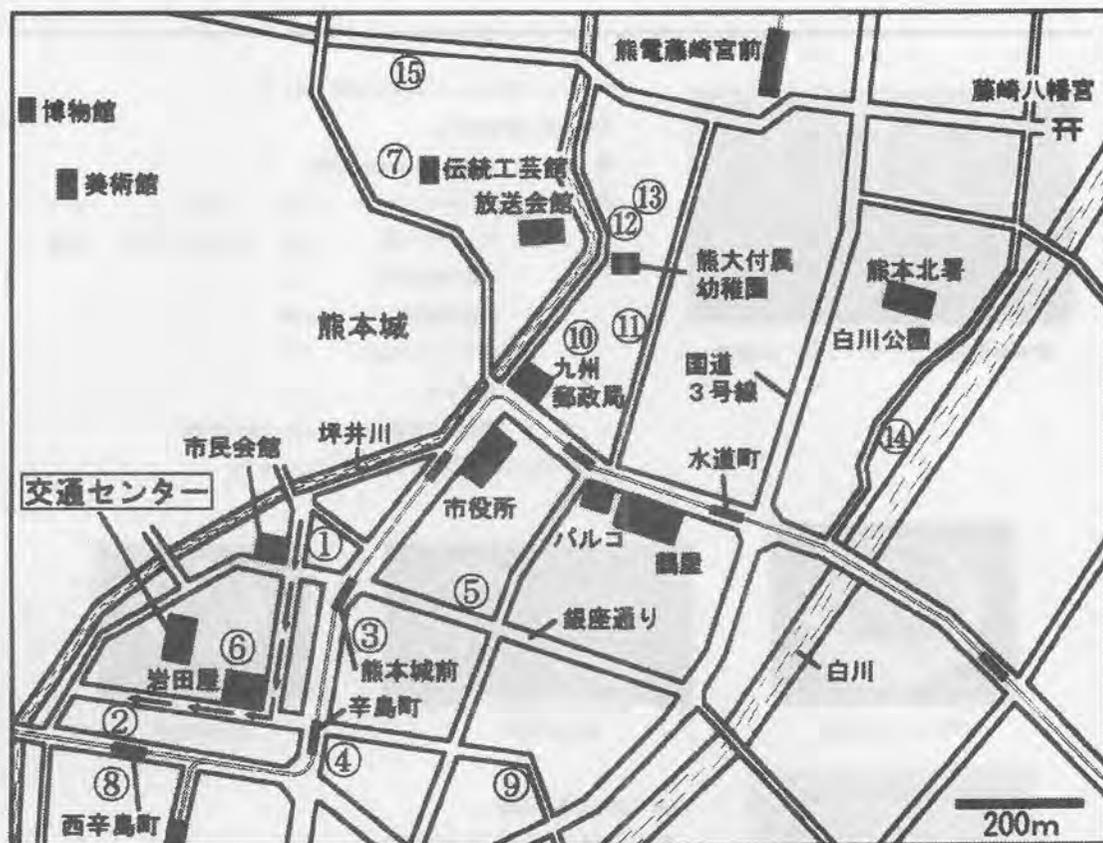
熊本県本県菊池郡西合志町須屋 2421

TEL : 096-242-7734

FAX : 096-249-1002

E-mail : iwahori@knaes.affrc.go.jp

## 会場案内



### 会場へのアクセス

JR熊本駅より：バス「熊本交通センター」下車（約15分 130円），または市電「熊本城前」下車（約15分 150円）

熊本空港より：バス「熊本交通センター」下車（約60分 670円），またはタクシー（約45分 約5,000円）

JR博多駅または福岡空港より：高速バスひのくに号「熊本交通センター」下車（約2時間 2,000円）  
熊本交通センターより徒歩約300m。市電「熊本城前」より徒歩約150m。

①講演会場：熊本国際交流会館 ②懇親会会場：チサンホテル熊本 ③熊本グリーンホテル ④熊本東急イン ⑤ホテルサンルート熊本 ⑥熊本交通センターホテル ⑦KKR 熊本 ⑧熊本ロイヤルホテル ⑨熊本ワシントンホテルプラザ ⑩熊本ホテルキャプセル ⑪ホテルオークス ⑫アークホテル熊本 ⑬ビジネスホテルニュータジリ ⑭メルパルク熊本 ⑮熊本厚生年金会館